資料２

令和５年１１月８日

第５回 仙台市交流人口拡大推進検討会議
会議資料

文化観光局観光課

目次

１．はじめに ・・・・・・・・・・・・ ３

２．本検討会議における検討経過 ・・・４

３．観光産業の現状・・・・・・・・・・・・６

４．今後の取組みにおいて重視する視点 ・９

５．重点的な取組み例・・・・・・・・・・・10

１．はじめに

検討会議の状況

〇宿泊・観光関係団体や学識経験者などで構成しており、令和２年１月に交流人口拡大に向けた施策や宿泊税などの新たな財源の確保について議論する場として設置。
〇令和２年１月～３月にかけて会議を重ねたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、会議を休止。

■観光産業は、コロナの影響に加え、昨年、一昨年の地震被害、さらには物価の高騰などにより、厳しい状況であったが、本年度は、お祭りや大規模イベントが通常規模に近い開催となっているほか、直近の仙台市内の宿泊者数もコロナ前のR1年同月比90%前後で推移している。

■仙台市において、検討会議の委員や関係団体、宿泊事業者の皆様と、コロナからの回復状況や観光の課題、今後の方向性や新たな財源のあり方などについて意見交換を実施。観光客は順調に戻ってきている実感があるが、コロナ禍が経営に与えた影響は大きく、そうした点への配慮を踏まえつつ、仙台市としてこれまで以上に観光に力を入れていく必要があり、強化していく施策の方向性と財源のあり方について議論を始めるべきといったご意見が多数。

■人口減少社会が進んでいく中において、持続的に地域経済を成長させていく鍵となるものは交流人口の拡大。アフターコロナの都市間競争は激化しており、本市の観光の魅力向上及び課題解決に向けた施策をより積極的に講じていくことが不可欠。

２．本検討会議における検討経過
（1）会議開催等の経過

R2.1.17

第１回会議開催
- 本検討会議設置に至る経過
- 本検討会議の論点

R2.1.20～1.31

交流人口拡大のための施策に関するアンケート実施
- 仙台市が取り組むべき施策等についての自由記述
- その他自由記述　等

R2.1.27

第２回会議開催
- 今後必要な施策と事業規模
- 財源確保策についての論点

R2.2.6

第３回会議開催
- 交流人口拡大のための施策に関するアンケート結果について
- 本検討会議における検討経過について

R2.2.14～3.16

「仙台市の交流人口拡大に関する施策及び財源についての方向性（案）」に対する市民意見募集
- 意見数…44件

R2.3.25

第４回会議開催
- 新型コロナウイルス感染症の観光関連産業への影響と、必要な施策について

2．本検討会議における検討経過
（2）施策及び財源の方向性（案）※令和２年２月時点

1 必要な交流人口拡大施策

① 年中訪れたくなる、**魅力的なコンテンツの発掘・創出**

② ストレスフリーで旅行できる、**快適な受入環境づくり**の推進

③ マーケティングを重視した、**国内外への効果的なプロモーション**

④ MICE参加者やビジネス客など、**観光目的以外の旅行者向け施策**の充実

⑤ 県内・東北への旅行者の周遊促進を図る、**東北のゲートウェイ機能の強化**

⑥ 持続的な交流人口拡大施策の実現に向けた、**官民連携による推進体制の確立**

2 新たな財源の確保

財源については、一定規模以上で安定的かつ継続的に確保する必要があることや、宮城県が宿泊税導入の方針を示していることを踏まえ、**宿泊税が適当**

◆納税義務者
宿泊施設（民泊含む）への**宿泊者**

◆免税点・課税免除・税率
宮城県の制度案を踏まえ、**県と十分に協議の上、慎重に検討**

◆徴収方法
特別徴収とし、特別徴収義務者を宿泊事業者等とする

◆課税期間
５年間とし、５年ごとに制度のあり方を検証

3 新たな財源の使途等

- 財源の適切な活用をチェックする機関として、ラウンドテーブルなど官民連携による継続的な会議体が必要。資源投入の効果やエコシステムが循環しているかを検証し続ける必要がある。
- 負担者が実際に受益を得るような使い道をイメージしながら使途を明確にしていくべき。
- 宿泊の増えるイベントや閑散期のイベントを増やすことに活用すべき。例えば、「このイベントは宿泊税を財源にしている」と明示すれば、負担と受益の関係性がわかり、使途がはっきりする。
- 宿泊事業者に直接リターンのある施策、例えば事業者単独では難しい施設整備や人材育成などに活用すべき。　　等

３．観光産業の現状
（1）ヒアリング結果

ヒアリング期間：令和５年９月～10月　　ヒアリング先：観光・宿泊関係団体、経済関係団体、学識経験者など

コロナからの回復状況

▸宿泊者数の戻りは順調で、今年に入ってからはコロナの前よりも好調な月もある。客層はレジャー団体が中心がったが、ビジネス客も増えてきたと感じる。

▸ＭＩＣＥやビジネス出張は戻ってきているが、観光はピーク時に比べれば、まだこれからだと感じる。

▸宿泊者数は伸びているが、ファミリー層が増えており、客単価が低く、売り上げの観点では回復していない状況。今はコロナで落ち込んだ分の反動だと考えており、今後も注視していく必要がある。

▸令和元年度に検討会議を立ち上げた後は、コロナの影響で議論を休止することはやむを得ない状況だったが、今はイベントなども通常通り開催され、回復してきている。

検討時の留意点

▸仙台市が交流人口の拡大に向けて何に力を入れていくべきかについて議論を行い、その推進や課題解決のための財源として、宿泊税の必要性を議論すべきである。

▸コロナの影響で観光産業以外も厳しい状況なので、一般市民の目線で心情的に負担感を感じることにも配慮したほうがよい。

▸宿泊税導入に向けた議論を行う際には、①使途の明確化・見える化、②税額の設定、③説明責任、④コロナの影響に配慮しながら、検討を進めることが必要である。

▸宿泊税の納税者はあくまでも宿泊者であることに留意しつつ、何に使うのか、目的税として毎年使途を明確にするべき。

３．観光産業の現状
（1）ヒアリング結果

ヒアリング期間：令和５年９月～10月　　ヒアリング先：観光・宿泊関係団体、経済関係団体、学識経験者など

観光施策の方向性

- ▸リピーターが少ない。また、仙台はエリアが広く、特に郊外では交通の便が良くない。
- ▸宮城・東北は、他地域と比較してインバウンドが弱い。ＭＩＣＥ誘致もさらに強化して欲しい。
- ▸人材不足が課題。正規職員を雇用することが難しい。
- ▸新たな観光スポットをつくるなど、行政が投資しないとできない、維持管理にも費用がかかるハード整備に活用して欲しい。
- ▸プロモーションよりもそれだけで訪れる価値のある観光資源の整備をお願いしたい。
- ▸仙台には１年を通じてお祭りやイベントがあり、また、温泉地など魅力ある観光地・コンテンツがあるので、そういった既存の観光資源を磨き上げる視点が重要である。
- ▸今後、中心部の再開発が見込まれる中、中長期的なまちづくりの視点を持って、景観づくりや周遊性向上の取組みを推進して欲しい。
- ▸データを有効活用するとともに、お得なクーポンの発行など旅行者に還元される取組みが重要である。
- ▸観光地としての魅力を向上させるために、例えば、二次交通やトイレの整備など、快適に旅行できるような受入環境整備やオーバーツーリズム対策が重要である。
- ▸インバウンドの獲得に向けて、欧米からの誘客など取組みを強化してほしい。
- ▸ＭＩＣＥ誘致のインセンティブを充実させる取組みが重要である。
- ▸今後も起こりうる災害に備える基金を確保しておくことが重要である。

３．観光産業の現状
（2）仙台市観光交流未来会議における意見

仙台市観光交流未来会議：令和５年10月26日　　観光・宿泊関係団体、経済関係団体などで構成

観光施策の方向性

- ビジネス目的の会議では、会議の時間だけを計算して、交通手段を確保してしまうので、観光につながらない。観光目的ではない人にも気軽に観光してもらう仕組みづくりが必要。
- コンベンションの出席者に、市内を周遊できるクーポンなどを渡す手法をＤＸ化してほしい。
- 日本のコンベンションはまじめな印象。海外のように思い切って楽しいコンテンツを盛り込めるとよい。
- 人材不足で宿泊客の受け入れを断念している施設もある状況。人材不足に対しては、閑散期対策、ナイトタイムの活用などにより平準化することも効果的。
- 魅力的な農産物の地産地消、フードロス削減といった課題解決のための取組みをコンテンツにできないか。
- ポートランドは観光客のためではなく、自分たちのカルチャーとして育んできたものが、人を呼び込むきかっけになっている。そもそも地元の人が楽しめてこそ、観光客の方も楽しめる。
- 都市間競争の中で、他都市と同じようにするのではなく、トップランナーにならなければならない。新しいことを日本で最初にするくらい、突き抜けていくことが大事。
- 例えば、市バスを今後購入する時はカーボンニュートラルにして、排気ガスが出ない綺麗なまちで売り出すなど、新しいことを始めるにはお金がかかるため、そのための財源確保は重要な課題。
- 宿泊税を検討するのであれば、旅行者へのメリットをはっきり示してほしい。市が実施しているトク旅キャンペーンは喜ばれている。

４．今後の取組みにおいて重視する視点

重視する視点

世界観光都市、仙台・東北の実現

・インバウンド獲得を含め、選ばれる観光地として仙台・東北を新たなステージへ引き上げるため、宿泊者の満足度と持続可能な観光地域づくり（観光競争力の強化）の視点を踏まえた新たな施策を検討

視点① 宿泊者の満足度向上

・新たな訴求力のあるコンテンツの開発と直接的に宿泊者に還元できる取組み

・インバウンド対応などの快適に旅行できる受入環境の充実

・ＤＸなどを通じたデータ分析の精緻化によるサービスの向上と来訪者がリピーター(ファン)になってくれる仕掛け

視点② 持続可能な観光地域づくり

・設備投資やＤＸ推進等による、高付加価値なサービスの提供や生産性の向上

・観光事業者が適正な対価を収受し、設備投資や従業員の待遇改善が図られ、サービスの充実と観光人材の確保・定着につながる好循環を生み出す、産業として魅力ある観光地域づくり

・大地震等の自然災害や感染症のまん延、国際情勢への変化に伴う資材費の高騰等の環境変化への迅速な対応

取組み 1 それだけで訪れる価値のある新たな観光資源の整備

取組み 2 観光事業者の高付加価値化及びＤＸの実装

取組み 3 快適に旅行できる受入環境整備

取組み 4 閑散期対策

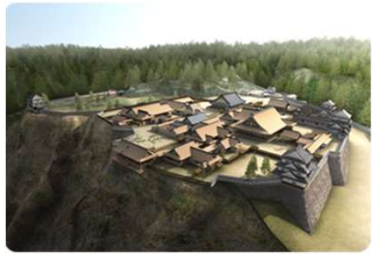
取組み 5 災害等緊急対策

5．重点的な取組み例
(1)それだけで訪れる価値のある新たな観光資源の整備①

王道観光地・青葉山エリアの価値向上

〇将来にわたって国内外から旅行者を惹きつけ、継続的な来訪や消費額向上を実現
（仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョンの具現化、仙台城跡の魅力の磨き上げ、広瀬川の活用等）

イメージ：仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョンより



イメージ：青葉城（本丸会館HPより）

かわまちてらす閖上

信濃川やすらぎ堤

御船山楽園「かみさまがすまう森」

丸岡城　「ヒカリ結び」

【提供】チームラボ《夏桜と夏もみじの呼応する森》© チームラボ

5．重点的な取組み例
(1)それだけで訪れる価値のある新たな観光資源の整備②

魅力ある温泉地での滞在促進

○それがあるだけで訪れる価値がある観光のランドマークづくりを意識して温泉地の魅力向上を図り、富裕層やインバウンドにも強く訴求
○国際的リゾートコンベンションの誘致、インバウンド対応の充実強化（外国人向け温泉利用・入浴マナーの周知等）、事業者自らが温泉地の案内役として活躍できる観光資源の整備

写真：長門湯本温泉（山口県）
【提供:界 長門】

写真：有馬温泉（兵庫県）
【提供:夜景写真家 中村勇太】

写真：玉造温泉（島根県）

写真：道後温泉（愛媛県）

写真：馬ケ背「スケルッチャ！」（宮崎県）

5．重点的な取組み例
(2)観光事業者の高付加価値化・DX推進

観光サービスの質的向上で客単価倍増

○宿泊施設や観光施設等の改修、廃屋撤去、面的DX化などの取組の支援し、インバウンドも含めた宿泊者の満足度を向上させるとともに地域・産業の「稼ぐ力」の回復・強化
○人材育成支援等を通じた地域におけるマネジメント体制の構築を促進

■ 宿泊・観光関連施設の高付加価値化、廃屋撤去、施設のバリアフリー化等

宿泊施設外装の高付加価値化

観光関連施設の高付加価値化

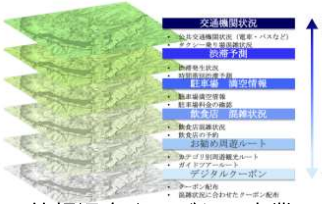
バリアフリー化

宿泊施設内装の高付加価値化

景観を損なう廃屋の撤去

太陽光発電

■ 観光DXの推進


箱根温泉まるごとDX事業

キャッシュレス化
ふるさと納税電子クーポン

■ 観光人材育成・活用、人手不足対策

地域に精通した通訳ガイド

外国人材受入れ
マッチングイベント

項目	方向性
観光事業者の高付加価値化	▸高付加価値の高い空間や特別感のある体験、滞在価値の高いおもてなし・サービスの提供による延泊や長期滞在を促進する宿泊・観光関連施設等のハード・セミハード整備 ▸持続可能な観光に向けたカーボンニュートラルの推進 ▸宿泊・観光関連施設等のインバウンドを含めた多様な受入環境充実整備
観光ＤＸ	▸地域一体となった面的ＤＸ化による観光地域サイト（アプリ）の構築とタイムリーな情報収集等の環境整備 ▸ＤＸ化による生産性向上や経営の高度化による稼げる地域・稼げる産業づくり
観光人材育成・活用 人手不足対策	▸観光地域づくりや観光デジタル人材の育成・活用 ▸人手不足の改善に向けた外国人労働者雇用促進

5．重点的な取組み例
(3)快適に旅行できる受入環境整備

快適で満足度の高い旅行の提供

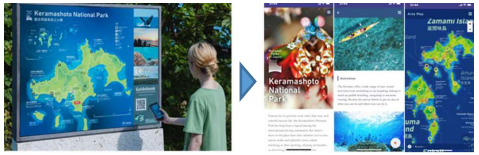
○持続可能な観光を実感でき観光地・宿泊施設・公共交通機関の各場面においてストレスフリーで快適な旅行ができる受入環境の整備、コンテンツの造成、二次交通や多様な移動手段の確保
○インバウンドや上質なコンテンツを求める層、MICEへの誘客・周遊・リピートを促進

■ 受入環境整備

トイレの高機能化(有料)

キャッシュレス化

心のバリアフリー


多言語解説の整備・充実
(QRコードからDigitalアプリへ)

多言語字幕

■ 二次交通対策、多様な移動手段

オンデマンドバス※1

小型モビリティ

次世代型電動車椅子※2

電動キックボード

■ インバウンド・MICE

G7 Science Ministers' Meeting, Sendai, May 12th-14th, 2023
仙台科学技術大臣会合
2023年5月12日(金)→14日(日)

写真提供 ※1:大阪市高速電気軌道(株) ※2:WHILL株式会社

項目	方向性
受入環境整備	▸高付加価値な空間や特別感のある体験の提供、滞在期間中のおもてなし・サービスの提供 ▸繁華街防犯やオーバーツーリズム対応による快適に旅行できる環境づくり ▸「観光施設における心のバリアフリー認定制度」を活用したユニバーサルツーリズム推進
二次交通、多様な移動手段	▸利用しやすい交通インフラ、二次交通をはじめとする受入環境を充実させ、誰もが快適に旅行できる観光地域づくりの確立
インバウンド・ＭＩＣＥ	▸インバウンドに訴求する高付加価値なコンテンツの提供 ▸広域連携による周遊・延泊推進、安心して訪れることができる体制整備 ▸ＭＩＣＥ参加者が満足し、また訪れたいと思えるような付加価値の提供 ▸タイ・台湾の重点市場に加え、首都圏入国者や欧米へのプロモーションの強化 ▸多言語・食など受入環境の更なる充実の推進 ▸ユニークベニュー（中心部商店街、国分町、稲荷小路、仙台市博物館、仙台市天文台、旧伊達伯爵邸鍾景閣など）の強化

5．重点的な取組み例
(4)閑散期対策　(5)災害等緊急対策

大規模イベントの充実／閑散期対策

○仙台を代表する祭りや大規模イベントの魅力向上やナイトコンテンツの造成、MICEの誘致強化、閑散期の誘客キャンペーンなど

項目	方向性
コンテンツ開発	▸祭りの高付加価値化・収益力向上支援 ▸閑散期向けコンテンツ、ナイトコンテンツの造成・発信強化
誘客キャンペーン	▸MICEの分散開催の促進、ユニークベニュー等の充実 ▸閑散期の宿泊促進キャンペーン
広域観光推進	▸冬季の東北一体のモデルコース造成・ＰＲ ▸教育旅行等の誘致促進、補助金の検討

提供:十日町雪まつり実行委員会

災害等緊急対策

○観光関連対策基金を創設し、不測の事態へ迅速に対応できる支援財源を整備

項目	方向性
基金	▸観光関連対策基金の創設